

比較文学研究室主催

講演会

「震える耳で読む—津波の後の人文学」



2012年7月14日（土）

戸山キャンパス 34号館 453教室

7月14日（土）、午後3時から戸山キャンパス34号館453教室で、堀内正規教授（文学学院）の司会のもと比較文学研究室主催講演会「震える耳で読む—津波の後の人文学」が行われた。これは2011年春の大震災が大学の教

員に及ぼした教育への影響を実態として捉えようとするもので、大震災のあと新年度最初の授業で語られた内容を集録した『津波の後の第一講』（岩波書店）を編集した今福龍太氏と鶴飼哲氏を講師として、その本質的な問題を明らかにしたものである。広島に原爆を投下したB29の出発地、テニアン島の光景に触れ、そこにヒロシマ、そしてフクシマの影を見る。さらにそこからイメージーションを膨らませて、人間の尊厳を明らかにするもので、英詩の朗読があり、「津波の後の第一講」が再現され、聴衆の感動を誘った。大震災に対する文学系の教員の取り組みが具体的に示され、有意義なものとなった。（報告 海老澤衷）